

いきいき同窓会ホームページ開設の軌跡

「私たちがやらなければ、誰がやるの？」

年次総会の重苦しい空気の中、会員数の大幅な減少と活動の停滞が報告され、多くの会員がうつむき、諦めの色が漂っていました。その静寂を破ったのは、副会長である角田洋子さんの、凜とした決意に満ちたこの一言でした。会員の高齢化と減少という、避けては通れない危機的状況を打開するため、彼女はデジタル化という未来への活路を強く訴えたのです。

ゼロからのスタート

洋子さんの熱意は、固く閉ざされかけていた会員たちの心に火をつけ、5人のメンバーがホームページ作成という未知の挑戦に名乗りを上げました。しかし、集まったのは「ブラウザって何?」「クリックするのが怖い」と話すパソコン操作もおぼつかない初心者ばかり。まさに暗中模索、ゼロからのスタートでした。

幸運にも、地域で活動するホームページ作成講座の谷合先生と出会い、その指導を仰ぎながら、インターネットやYouTube動画を教科書代わりに、手探りで知識を吸収していく日々が始まりました。毎月の勉強会では、専門用語の壁にぶつかり、思うように進まぬ作業に焦りや不安が募ることもありました。しかし、そんな時こそ洋子さんの「大丈夫、一歩ずつ進めば、必ず道は開けるから」という励ましが、皆の心を繋ぎ止め、再び前を向く力となりました。

新たな風と完成の喜び

プロジェクトが大きな転機を迎えたのは、企業でシステム部門にいた正和さんと、Webデザインが趣味の美佐さんが新メンバーとして加わったことでした。WordPressの経験を持つ正和さんは、サイトの骨格となる構造を論理的に整理し、美佐さんは写真の選定から配色まで、温かみのあるデザインで会の魅力を視覚的に表現。二人の加入はまさに「新しいエンジン」となり、停滞気味だったプロジェクトは一気に加速しました。

そして数ヶ月後、ついにホームページが完成。行事予定や生き生きとした活動写真、会員からの温かい声、さらにはオンライン申込フォームまで備えたサイトが画面に映し出された瞬間、メンバーは大きな達成感と感動に包まれました。「私たちの手で、こんなものが作れるなんて」と、誰もが誇らしげな表情で画面を見つめていました。

完成後の新たな壁と乗り越える力

しかし、その喜びも束の間、すぐに新たな、しかし予想された壁が立ちはだかります。

- 「ホームページのアドレスが長くて、とても入力できない」
- 「検索しても、他のサイトばかり出てきて見つけれない」
- 「ブックマークの仕方がわからず、毎回探すのが大変」

特に高齢の会員にとって、URLの直接入力や検索、ブックマークといった基本的な操作が高いハードルとなっていました。せっかく時間と情熱を注いで作ったホームページが、届くべき人に届かない「宝の持ち腐れ」になりかねない状況でした。

この課題を解決するため、洋子さんたちは理事会で毎回10分間の「ホームページの見方・使い方講座」を実施することを決定。プロジェクターに実際のスマートフォン画面を大きく映し出し、「まず、この虫眼鏡のマークを押します」「次に、ここに文字を入れます」と、一つひとつの操作を丁寧に、繰り返

し説明し続けました。

ホームページがもたらした成果

地道な努力は、やがて大きな実を結びました。会員のホームページへのアクセス数は着実に増加し、サイトは会の「デジタルな談話室」へと育っていきました。「あなたのおかげで、私でも使えるようになったわ」「行事に参加できなくても、写真がたくさんあって、見ているだけで楽しいし、みんなの顔が見られて嬉しい」といった感謝と喜びの声、制作チームに次々と寄せられるようになりました。オンラインでの申し込みが手軽になったことで、これまで「手続きが面倒で」と参加を見送りがちだった会員も、気軽に行事に顔を見せるようになり、会全体の活気が明らかに変わっていきました。

何よりも大きな成果は、ホームページが会の内外に「いきいき同窓会は、今もこんなに楽しく活動している」という事実を生き生きと伝え、新たな仲間を呼び込む強力な磁石となったことです。過去の卒業生が偶然サイトを見つけ、「こんなに活発なら」と再入会するケースも現れました。それは、ホームページが単なる情報伝達ツールではなく、コミュニティの心を再び一つにする力を持っていることの証明でした。

さらなる進化へ：AIとの共創

ホームページの成功は、会の眠っていた多種多様な才能を呼び覚ましました。「自分にも何かできることがあるなら手伝いたい」と、定年まで国語教師を勤め、その分かりやすい文章には定評があった会員や、図書館司書だった経験を活かして写真のデジタル整理を申し出てくれた会員など、さらに数名が自ら制作チームに参加。それぞれの得意分野を活かせる場が生まれたことでチームは活気づき、ウェブサイトには「私たちの自慢」と題した趣味紹介コーナー（園芸、書道、手芸作品など）や、ウォーキング同好会が見つけた船橋の美しい風景を集めた「船橋の足跡ギャラリー」など、血の通った温かいコンテンツが次々と生まれました。サイトは見る見るうちに充実し、閲覧者も増加。「ホームページのおかげで会の様子が手に取るように分かって安心した」「体調を崩して外出できなくても、ここに来ればみんなと繋がっている気がして、寂しくないよ」といった声に加え、遠方に住む会員の娘さんからは「一人暮らしの母が心配でしたが、サイトで笑顔を見られて安心しました」という感謝のメッセージも届き、こうした声の一つひとつが、チームにとって何よりの励みと「生きがい」になっていったのです。

そんなある日の定例会で、正和さんが少し興奮した面持ちで切り出しました。「皆さん、最近話題のAIを使ってみるのはどうでしょう?」。その言葉に、メンバーは顔を見合わせます。「AI? なんだか難しそうだ...」という不安の声に、正和さんはにこやかに続けます。「例えば、行事報告の文章をAIが要約してくれたり、お知らせに添える簡単なイラストを作ってくれたりするんです。私たちの作業が楽になるだけでなく、もっと見やすいページが作れるかもしれません」。

それは、かつて「パソコンが怖い」と言っていた彼らが、今や最先端の技術に挑戦しようとする、成長の証でした。洋子さんは、メンバーの輝く目を見て、力強く頷きました。「面白いわね! また新しい挑戦が始まるのね。みんなで学んで、AIを私たちの仲間にしちゃおう!」

ホームページの開設は、単なる情報発信ツールの導入という枠を遥かに超え、会員一人ひとりに「やればできる」という挑戦する心と呼び覚ましました。そして今、AIという新たな仲間と共に、会にさらなる「いきいき」を生み出そうとしています。彼らの挑戦は、会全体に強固な一体感と未来への希望をもたらす、かけがえのない物語として、これからも紡がれていくのです。